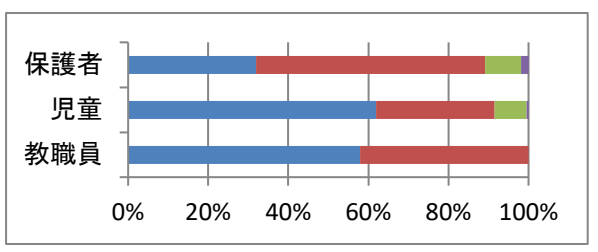
令和3年度　自己評価書・学校関係者評価書

■そう思う　■どちらかといえば,そう思う　■どちらかといえば、そう思わない　■そう思わない　■無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

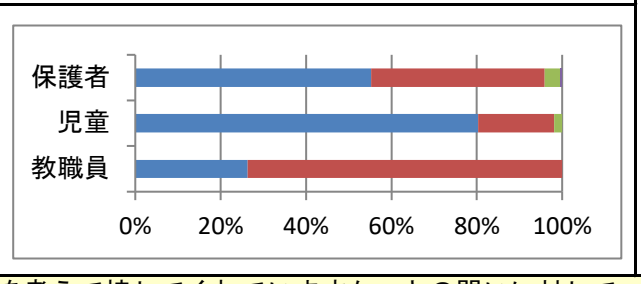
1　一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にした指導や対応ができていると思いますか。



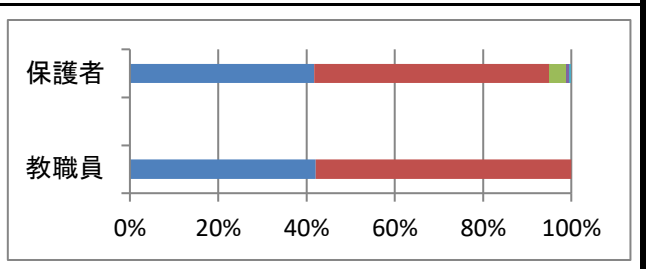
2　友達への思いやり

子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。



3　道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重，思いやりなど）

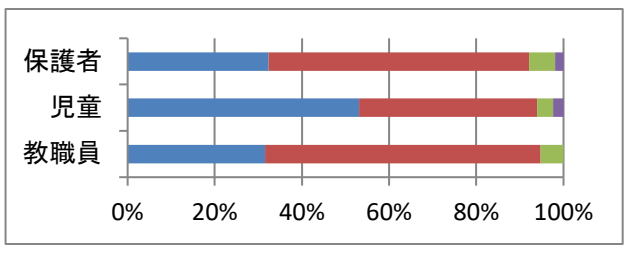


【学校から】❶「先生方は、みなさん一人一人の気持ちを考えて接してくれていますか」との問いに対して、「そう思わない」と答えた児童が1人、「どちらかと言えば、そう思わない」と答えた児童が１７人いる結果をしっかりと受け止め、「自分は大切にされている」と児童が実感できる教育活動を展開していく必要がある。「２」「１」の割合は８％に上る。児童自身が担任との関係性をどう感じているかが同じように表れた項目❽の「２」「１」でも１０％と近い結果が出ていることも踏まえ、「個々のよさを認めながら、一人ひとりを大切にする」学校教育の根本を改めて職員で共有し、日々の教育活動を営んでいきたい。

②確かな学力を育む教育の推進

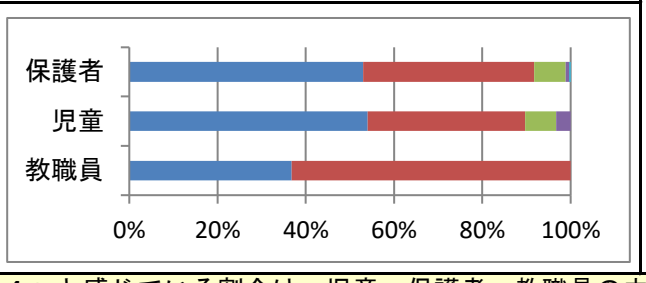
4　意欲的な学習態度

子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。



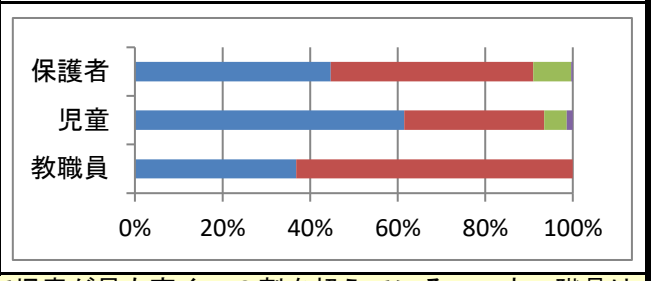
5　授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



6　ICT活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

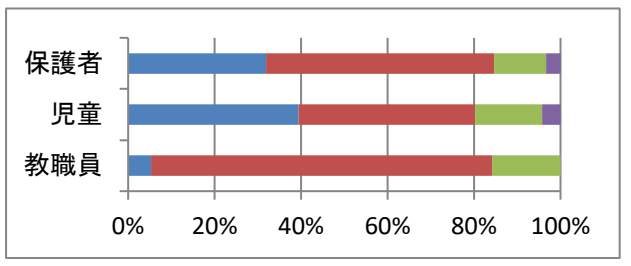


【学校から】❻今年度初めて設けられた項目である。「４」と感じている割合は、児童・保護者・教職員の中で児童が最も高く、６割を超えている。一方、職員は最も低く４割を切っている。学年や学級によって差異があるので、全職員が「積極的にタブレットを活用している、自校内で活発に活用されている」と自信を持って言えるよう、タブレット活用に関する研修等を更に充実させ、活用内容を拡げたり活用頻度を高めたりしていく必要がある。

③健やかな体を育む教育の推進

7　健康づくり

子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

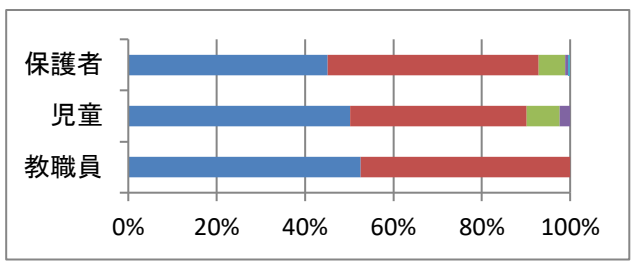


【学校から】毎年度、この項目の評価が一番低くなっている。「好き嫌いない食事」「適度な運動」「十分な睡眠」の内課題が大きいのはどれか整理し、家庭と連携し、改善を進めていきたい。

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

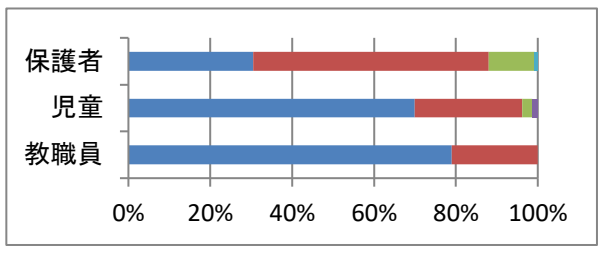
8　児童生徒理解

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。



9　いじめや問題への対応

学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。



【学校から】❾保護者の回答で「１」は0%だが、「２」が１１%と一定数ある。保護者全体に対するいじめその他の問題で心配した保護者の割合からすると、相当数の数字と考えられることを受け止める必要がある。一方、職員としては「４」の割合が79%と全項目の中で際立っており、月1回のアンケートその他から把握した段階で対応してきたつもりであることが伺える。早期発見により一層努めるとともに、早期発見には限界がある事を前提に、いつでも悩みを相談できる日頃からの児童と職員との人間関係を更に整えていく必要がある。

②特別支援教育の推進

10　学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

11　共生社会を担う人材の育成

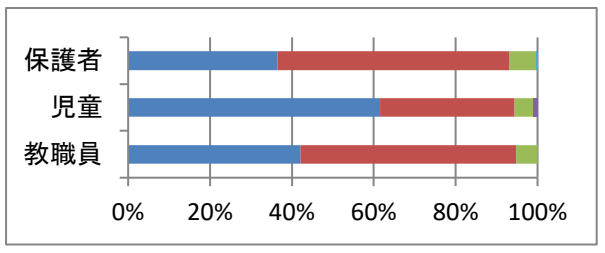
「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。

【学校から】❿「支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組む」については、授業を行う教員間や管理職も含めたケース会議等で適宜話し合いを持ちながら進められており、それが、教職員が「４」と回答した割合が６割を超える結果にも表れている。しかしながら、その過程や結果を保護者にどう周知し理解を得ていくか、難しい面がある。

①子どもたちの身近な安全対策の充実

12　安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

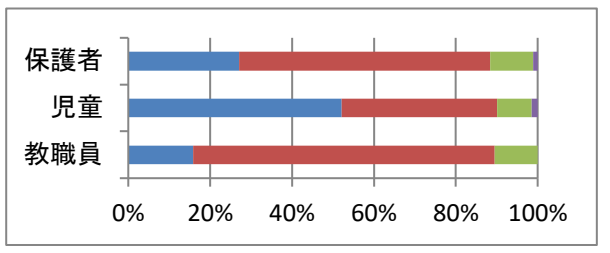


【学校から】交通、防犯、防災、学校生活等、安全教育の内容は多岐に渡る。限られた時間の中、他地域の事例等に学ぶながら、計画的効率的に自分の命は自分でを守る安全教育を進める必要がある。

②最適な学習環境の整備

13　施設･設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

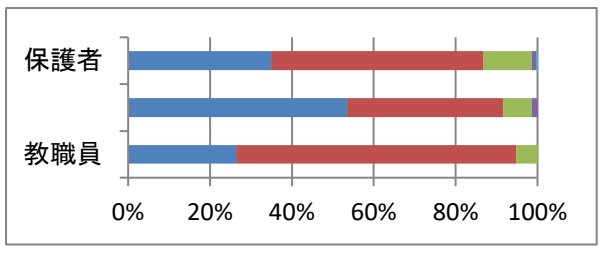


【学校から】古い校舎で予算も限られてはいるが、教育委員会による定期検査等を受け、優先度を判断しながら改修等の対応を進めている状況を保護者にも周知し、少しでも安心していただく必要がある。

③家庭･地域社会との連携強化

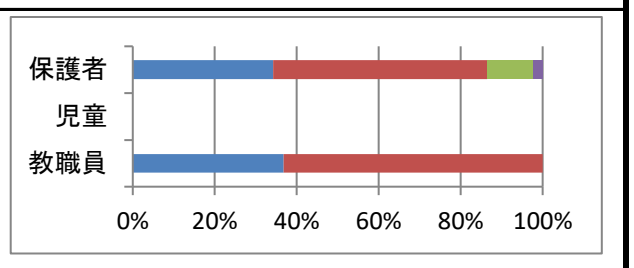
14　教育方針･目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



15　家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

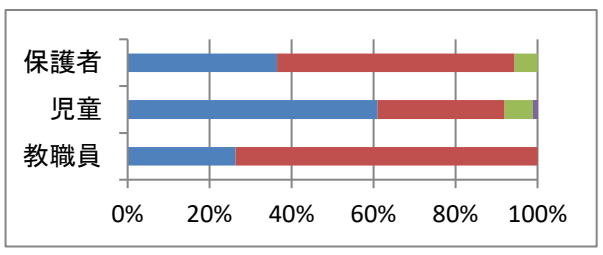


【学校から】⓯新型コロナウィルス感染症の影響が長期化し、授業公開や家庭・地域も対象とした行事等による来校の機会が少なくなったり、家庭や地域と連携・協力を図った教育活動が難しくなったりしている現状がある。教育方針や教育目標の周知や家庭・地域との連携・協力の在り方等に関して、研究し工夫を図っていく必要がある。

⑧本校の教育

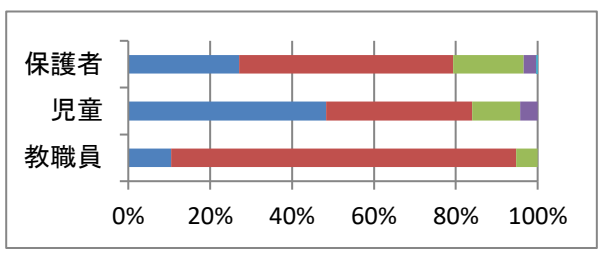
16　心の教育の充実

児童の行動の中に、相手や周りのことを思いやる気持ちが増えてきたと思いますか。



17　確かな学力の定着

児童は、難しい問題に出合っても、諦めずに粘り強く考えるようになったと思いますか。



【学校から】⓱「難しい問題に出会っても、粘り強く考えるようになった」については、児童と保護者・教職員の間で、大きな隔たりがある。「４」と実感している児童が４８％とほぼ半数に達するのに対して、職員は１１％、保護者は２７％にとどまっている。一方、「２」「１」と自信を持てない児童が１６％にも上るのに対し、教職員はわずか５％と、認識の甘さが見てとれる。「難しい問題にも粘り強く考える」学びについて、職員が意識を高め見取りの精度を向上させるとともに、児童がもっと自信を持って「自分は粘り強く考えている」と胸を誇れるような学習の支援について、研修を深めていく必要がある。

来年度の具体的な取り組みについて

〇「難しい問題にも粘り強く考える」子どもたちの学びの姿について、職員が意識を高め見取りの精度を向上させていけるよう、短時間でもいいのでもっと職員間で授業を互いに参観したり、放課後互いの見取りを交換したりするような時間の工夫を図ったりしていく等、研修の在り方等も工夫していく必要がある。
　また、もっと自信を持って「自分は粘り強く考えている」と児童自身が胸を張れるような学習の支援について、研修を深めていく必要がある。「児童主体のめあて」「意欲を引き出し学びを深める対話」「自分の頑張りや課題を正当に評価できる振り返り」について研究を進めていきたい。
　更には、「個別最適化された学び」についても、職員間で浸透を図り、児童一人一人の興味関心や能力や進度に応じた学習についても研究を進めていくことで、児童一人一人が主体的に学習に取り組んでいる実感を児童に保証できる授業づくりを今後とも進めていきたい。

〇一人1台のタブレット環境が整った環境を活かし、児童が知的好奇心を満たされ達成感を得られる活用状況とするために、職員で学び合う機会を設けたり気楽に尋ねられる関係性を整えたりすることで、全職員のＩＣＴ指導能力をより一層高めていきたい。

〇新型感染症の影響により、児童の学校生活の様子を保護者に十分見て頂けていない状況が２年続いており、まだ当面この状況が続くことも予想される。教育目標の周知とともに児童の学校生活での様子に関して、今後もこまめな学校便り・学級通信の発行やホームページの更新により、更なる積極的発信を図り、理解いただけるよう努めていきたい。

学校関係者評価

〇毎日登下校の見守り活動を行い、挨拶の声をかけているが、なかなか声が出ない子もいる。しかし、頭を下げたりはしてくれる。走ったり大声を出したりして帰る学年もあったが、最近は少し落ち着いてきているように感じる。

〇新型感染症拡大のため、子どもたちや先生方の学校生活が制限され、不自由を感じているのではないかと案じている。特に、６年生は卒業式に向けて準備を進めていくと思うので、つつがなく式が行えることを願っている。

〇学校の施設・設備として、体育館の横のトイレを子どもたちがもう少し使いやすくしてほしい。休日に地域の行事を行うとき、子どもたちがトイレを使うのを嫌がっているので、善処をお願いしたい。